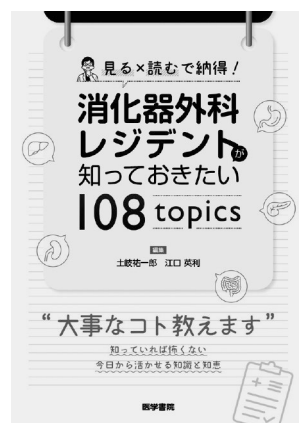




見る×読むで納得！ 消化器外科レジデントが知っておきたい 108 topics

土岐 祐一郎，江口 英利 編



必要なときに必要な知識に到達できる頼れる相棒

評者 森 正樹 東海大教授

本書『見る×読むで納得！ 消化器外科レジデントが知っておきたい 108 topics』は、消化器外科を志す若手医師に向けて、「今すぐ臨床で役に立つ知識」を凝縮した実践的なガイドブックである。研修医や専攻医、さらには消化器外科に関心を持つ医学部学生まで幅広い読者を想定しながらも、決して机上の理論にとどまらない“ベッドサイドで開いてこそ価値がある一冊”として位置づけられている点が、本書の最大の特徴といえる。

取り上げられている 108 のトピックはいずれも外科レジデントが臨床で直面しやすく、かつ理解の浅さが致命的となり得るテーマばかりである。これらを「見開き 2 ページ」でまとめ、最初に要点を簡潔に整理した上で、本文は基本的に 3 つのポイントに絞って解説する構成は秀逸だ。臨床現場では限られた時間の中で“本当に知るべきこと”に素早くアクセスする必要があるが、本書はそのニーズに正面から応えている。特に、結論から先に示し、続く本文で理解を深めるという流れは、忙しい現場で読者の思考を整理し、必要な判断へと直結させる力を

持っている。

さらに、図表を大胆に活用したレイアウトは、視覚的理解を徹底して追求したものだ。文章を読む負荷を軽減しつつ、重要なポイントを一目で把握できるよう丁寧に工夫されている。複雑な病態や手術手技、周術期管理のプロセスも、図示されることで読者の理解を確実にサポートする。単に「読む」のではなく、「見るだけで理解できる」構造が随所に散りばめられている点は、従来の教科書にはない大きな魅力だ。

また、本書が 108 という数字を採用した背景には、編集者の遊び心と外科医への深い理解が込められている。108 は人間の煩惱の数であると同時に、“外科医が日々四苦八苦する項目の数（ $4 \times 9 + 8 \times 9 = 108$ ）”であるという解釈には、臨床の厳しさを知る者なら思わずニヤリとしてしまう。こうしたユニークな発想が、本書全体の柔らかさと親しみやすさにつながっている。

巻末の文献一覧が極めて厳選されている点も見逃せない。大量の文献を羅列するのではなく、「本当に読んでほしいもの」だけを提示する編集方針は、読者の学習効率を最大限

に考えたものだ。本書を通じて興味を深めた読者が、次にどの文献へ進めばよいかが目でわかる構成は、教育的観点からも高く評価できる。

本書は消化器外科の“基礎と臨床の橋渡し”をも考えた教科書であり、知識を詰め込むのではなく、「必要なときに必要な知識へ到達できる」ことを徹底的に意識して設計されている。108 という数に象徴されるように、外科医が直面する悩みや疑問を、見開き 2 ページの中に的確にまとめ上げた本書は、まさにベッドサイドで最も頼りになる相棒となるだろう。

大阪大学消化器外科の皆さんが総力を結集して作製した渾身の本書を、消化器外科医をめざす若い医師や学生に確信を持って薦める。臨床の現場で折に触れて何度も手に取り、その都度理解を深めていく——そんな使い方ができる、実践力を養うための最良の一冊だ。

B5・頁 248 2025 年 11 月
定価：7,040 円（本体 6,400 円＋税 10%）
[ISBN978-4-260-06237-4] 医学書院 刊